



新築祝いに披露された立川区民の左義長太鼓

立川区民は、囃子方櫓と子ども櫓が新築されて移動式となり、トイレの新設や景観の仕上げなどにより立川区のシンボルのひとつとなったと喜んでいきます。

斎藤聡区長は、落成式で「左義長を伝統行事として益々繁栄を図るために区民全員が参画し、楽しく賑やかに盛り上げ、後世に継承していきたい。」とあいさつされました。



吉川さんの揮毫の様子をじっと眺める皆さん

今回の揮毫は、芳野区に在住のかたの伝により実現したもので、世界の書道家が勝山で揮毫するのはまたと無い機会と、芳野区以外からもその噂を聞きつけたかたなどが続々と詰め掛けました。そして、吉川さんが、芳野区のかたに福が来るよう思いを込めて書き上げると、会場からは惜しみない拍手が送られました。芳野区では、寄贈された書を区民会館や櫓に飾るなど、有効に活用したいとのこと。

立川区では、今年1月末に左義長櫓を格納する会館が完成し、市や議会、工事関係者、区民らを招き、2月17日に新築落成式を開催しました。

櫓会館の建物面積は70㎡、敷地面積が320・2㎡で、構造は鉄骨造平屋建ての高さ9・6メートル、幅7メートル。総工費は2160万円、このうち勝山市から470万円が補助されました。

左義長の話題

立川区左義長櫓会館が新築落成式

立川区も同様の問題を抱える中で、組み立てや解体による櫓の損傷防止、少子高齢化が進む中での櫓の保存と作業の安全確保、伝統行事の左義長を盛り上げて地域の発展を図ることを目的に、昨春の区総会で会館建設を決定し、11月9日に工事を着工。

立川区も同様の問題を抱える中で、組み立てや解体による櫓の損傷防止、少子高齢化が進む中での櫓の保存と作業の安全確保、伝統行事の左義長を盛り上げて地域の発展を図ることを目的に、昨春の区総会で会館建設を決定し、11月9日に工事を着工。



フィナーレとなるどんど焼きでは、雪でまっ白になった弁天河原に14のご神体が立ち、五穀豊穡を願う火柱があがりました

まつりは夜遅くまで続きましたが、多くの人が華やかな舞台を見つめていました



勝山左義長まつりが県指定文化財に

2月22日、まつりの前日に、福井県公報で勝山左義長まつりの県無形民俗文化財指定について掲載され、勝山左義長まつりが正式に県指定文化財になりました。

きっかけは、2年前に市民のかたから県指定への話があったことで、県文化財保護審議会が平成18年と19年の2年に亘って現地調査などの事前調査を行っていました。その結果、県指

定として十分な価値があると判断され、平成19年10月30日、左義長まつりを管理する13区の区長の同意を得て、連名で「福井県指定無形民俗文化財指定申請書」を提出。県文化財保護審議会が県教育委員会に答申して、2月14日に県の無形民俗文化財に指定することが決定されました。

勝山左義長の歴史

勝山左義長まつりは、小笠原氏が勝山に入封した約300年前から続くと言われてます。寛延元年(1748)に「郡町(上郡・下郡のあたり)が藩から火災の恐れを指摘されて、はやす場所(どんだの意)を向かいの田んぼに移した」また、明和元年(1764)に「左義長櫓を建てたけれども、藩主が仏参りをするのに交通の妨げになる」として、一旦解体を命じられた」と、文献に記載されています。このことから、当時からまちなかに櫓(今の櫓とは形も大きさも違つとされる)が建ち、どんど焼きが行われていたことが伺い知れます。

乳くびはなせ



芳野区左義長櫓で世界の書道家が揮毫

2月24日の午後2時頃から、芳野区左義長櫓で世界を舞台に活躍する書道家吉川壽一さん(65)による揮毫の実演が行われ、雪が降るあいにくの天候にも関わらず、会場はその様子を一目見ようと多くの観衆で人だかりができました。

吉川さんは福井市出身で、奎星会の創始者らに師事して持ち前の才能を磨き、小学1年生の頃に県の学童競争大会で知事賞を受賞するなど、その頭角を現しました。

吉川さんは、これまでに中国の北京



十二支の干支の間に「芳野福来」と見事な筆さばきで一氣に書きあげた吉川さん